

指示した避難場所 空爆



24日、パレスチナ自治区ガザ中部ヌセイラトで、破壊された建物（EPA時事）

ガザ

ロイター通信によると、パレスチナのガザ地区中部のマガジ難民キャンプで24日、イスラエル軍が空爆し、少なくとも70人を殺害しました。ガザの保健当局のアショウラフ・キドラ報道官が同日発表しました。キドラ氏は「死者数はさらに増加する可能性が高い」とし、「マガジ難民キャンプで起きている」と述べた。人口の密集した住宅地での虐殺だ」と述べました。

難民キャンプ 70人殺害

がガザ中央部の主要道路を爆撃し、救急車や緊急車両の通行を妨害しています。イスラエル軍は11月初めにモマガジ難民キャンプを攻撃し、100人以上を殺害しました。

攻撃で少なからず50人を殺害。今日12日も北部ジード攻撃を続行。ガザ当局によるところ、イスラエルの攻撃による死者は2万400人を超えました。

イスラム組織ハマスは声明を発表し、虐殺は「恐ろしい虐殺」であり、「新たな戦争犯罪だ」と述べました。

中東のテレビ局アルジャジーラは、攻撃で破壊された家のガレキを取り除いて、生存者を探そうとする家族の様子を伝えました。

娘と孫を含む家族数人を失ったアハマド・トゥロクマニさんは、「われわれはみな標的されている。ガザにはどこにも安全な場所はない」と語りました。

アルジャジーラのタリク・アブアズーム記者は、マガジ難民キャンプはガザ中部で最も人口密度の高い地域の一つであり、イスラエル軍が住民に射殺さ避難するよう指示した場所だったと報じました。「この冷血なジェノサイドの犠牲者の圧倒的多数は民間人であり、その中には生後2週間の新生児も含まれている」と述べました。

パレスチナ赤新月社は、攻撃による負傷者を病院に搬送する動画を発表。それによると、イスラエル軍機